

マリンレジャー安全レポート

第24号(平成19年7月)

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp



携帯電話を持って行こう!

6月5日1030頃、プレジャーボートに69歳と70歳の男性が乗船し、萩市江崎漁港を出港、沖合いで遊漁をした後、1700頃出港地向け帰港中、5分後にエンジンが停止しました。調査したところ、電気システムの故障が判明、復旧の見込みがなかったことと携帯電話を所持してなかったことから付近航行船舶に手を振ったりして救助を求めたものの、気づかれずにいました。その後、南よりの風に流されたため、2000頃萩市姫島沖合いで錨泊、翌6日1130頃、風が西よりに変わったため、錨を揚げ陸岸向け漂流していたところ、1305搜索中の巡視艇が発見、救助されています。

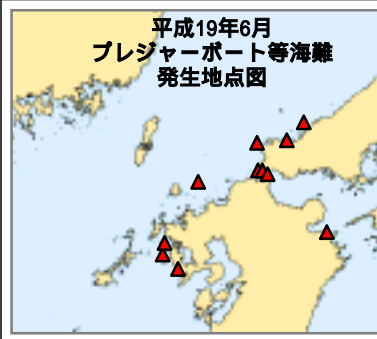
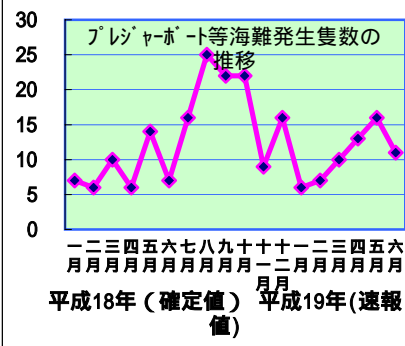
平成19年6月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	11隻
衝突	2
乗揚	1
転覆	0
浸水	0
推進器障害	2
舵障害	0
機関故障	5
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航障害	1
安全障害	0
その他	0



～事故からの教訓と対策～

今回は、釣りに出たまま、帰ってこない乗船者の家族から漁協を通じて、海上保安部に搜索依頼の連絡があったものです。彼らは、連絡手段である携帯電話を持たずに出港。事故が発生した後は風浪等による漂流のみで何の連絡も取れずに風まかせの非常に危険な状態でした。安全な釣りを楽しむため、必ず防水型携帯電話(防水措置したものを)を持って行きましょう。



自己救命策3つの基本

- 1 ライフジャケットを着けましょう。
- 2 携帯電話を携行しましょう。
- 3 118番を有効活用しましょう。

マリンレジャーの本番到来!!

夏も本番に近づき、各地の海水浴場などでは海開きが実施され、いよいよシーズン到来となりますが、近年、海水浴場付近では遊泳者と水上バイクのトラブルが後を絶ちません。このため、水上バイクの販売店・ユーザー等で組織した団体の会員等が主体となり、水上バイクのマナー向上や遊泳者等の海難救助を目的としたMPS(マリンパトロールステーション)が福岡、若松、唐津の各海上保安部管内に設置されています。そのほかにも伊万里湾、壱岐島にも、水上バイクを主体とした活動を実施又は予定しているところがあります。海上保安部もこれら団体などに協力し、海水浴場等での事故防止についての取り組みを進めています。



海の相談室だより (七管本部海洋情報部)

「参考図書の紹介」

ますます使いやすくなった「プレジャーボート・小型船用港湾案内」

海図は航海に必要なさまざまな情報が詳しく記載されていますが、「プレジャーボート・小型船用港湾案内」は小型船が利用する小港湾やヨットハーバーなど、海図では詳しく描かれていない港の目標・針路・障害物・マリナー情報などを、図と記事で分かりやすく編集した参考図集です。

6月29日、九州北西岸(玄界灘 - 島原湾・対馬・五島列島)H-808Wが7年ぶりにリニューアルされました。

主なポイントは

日本測地系から世界測地系へ
経緯度線により、位置が求めやすい
コンパスの偏差を図載

ロケーションが図載され、場所(位置)が分かりやすくなった

「フィッシャリーナ」、「海の駅」が新たに掲載された

多色刷りで、より見やすくなった



発行者 (財)日本水路協会
B5版 多色刷り、
価格 3,990円

海図には航海に必要な水深、灯台の位置、海潮流の速さや方向などが詳しく記載され、航海者にとっては欠くことのできないものです。このため、ごく一部の小型船舶などを除く全ての船舶に対して、海図を備え付けることが義務づけられています。詳細な情報、最新の情報については海図、水路誌、灯台表を参照してください。

7月16日から31日まで、「全国海難防止強調運動」が実施されます。

全国海難防止強調運動は、官民一体となり、海事関係者をはじめ広く一般市民に対し「海難ゼロへの願い」をスローガンに、海難防止思想の普及、高揚を図ることにより、海難の発生を防止することを目的に実施しています。



気象・海象に注意して、海で楽しく、安全に!!

今年度は

気象・海象の早期把握と適切な対応について
自己救命策確保(救命胴衣の着用、連絡手段の確保、海のもしもは118番)の推進

などを運動方針として定め、プレジャーボートやマリナー・釣具店などに赴き、周知・指導活動を行います。

また運動期間中、各地において、巡視船の体験航海や各種イベントが開催される予定です。詳しくは地元の海上保安部、海上保安署に問い合わせください。

